

両側 Carotid web を認めた若年性脳塞栓症の 1 例

◎井上 拓也¹⁾、谷津 隆之¹⁾、佐藤 菜津美¹⁾、澁澤 直子¹⁾、諏訪部 桂¹⁾、吉田 啓佑²⁾、美原 盤³⁾
公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 検査科¹⁾、脳神経外科²⁾、脳神経内科³⁾

【はじめに】 Carotid web とは、頸部内頸動脈起始部後壁に局所的にできる棚状構造物で、線維筋性異形成であるとされている。病変遠位側血流うっ滞にともなう血栓が形成され、それが塞栓子となり梗塞をきたす機序が考えられており、40～60 歳前後の女性に同定されることが多く、脳梗塞再発例も少なくない。今回、両側に Carotid web を認めた若年性脳塞栓症を経験したので報告する。

【症例】49 歳、女性。2021 年 X 月 Y 日、自宅で卒倒し他院に救急搬送された。頭部 MRI では右 MC、M2 分枝領域に拡散強調像で小範囲に高信号認められ、脳塞栓症の診断で入院した。t-PA 静注療法が実施され、右 M2 上行枝に虫食い欠損が残存する部分再開通した。t-PA 静注療法終了後、M2 上行枝は再開通し、M3 一部に閉塞、停滞が残存した。発作性心房細動は確認できなかったが、臨床症状からは心原性脳塞栓症の可能性が高いと考えられ、イグザレルトが開始。退院後、言葉が出にくいため 2022 年 X 月 Y 日当院を受診し、頸動脈エコーを実施した。【結果】頸動脈エコーでは両側の内頸動脈起始部後

壁において一部輝度が上昇し突出した Ulcer Plaque 様構造物を認めた。狭窄部位での PSV の上昇はないが、病変遠位側での乱流血流を認めた。一見、Plaque に類似したエコー像とも考えられたが、Carotid web の好発年齢・好発部位でもあることから、Carotid web を積極的に疑い報告した。CT-Angio の結果からも Carotid web として矛盾しないとの所見が得られた。最終的に右側を塞栓源として頸動脈ステント留置術(CAS)を施行した。【考察】近年、塞栓源不明の脳梗塞の原因として Carotid web が注目されている。Carotid web は疾患概念として浸透されつつあるが、エコーでは Plaque に類似した像を呈するため、見逃しはななくとも誤認されるリスクがあると推察される。日頃より患者背景、好発部位、エコー画像上の形態学および血行動態的特徴などを理解し、Carotid web も念頭に置いて検査を進めることが必要である。